

矢作川流域圏懇談会通信

R3 市民部会編 vol. 2



発行日：2021年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第10回市民部会WGを開催しました！

第10回市民部会WGを、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で開催しました。令和3年度第2回目の市民部会では、7月に実施した公開講座の総括と第2回公開講座について協議しました。また、今年度実施のバスツアーについて協議しました。



日時：2021年8月18日（水）13:40～15:30

会議場所：豊田市崇化館交流館 第2会議室

参加者：12名（内オンライン参加5名） ＊事務局含む

◆主な会議内容

1. 公開講座の総括と今後の計画について

(1) マイクロプラスチック公開講座（第1回公開講座）開催結果

7月31日に開催した第1回公開講座「プラスチックが生き物を苦しめている」の状況を報告しました。公開講座での良かった点や反省点などについて話し合い、次の公開講座に活かしていくこととしました。

【マイクロプラスチック公開講座の状況】

- ・ 開催日時：2021年7月31日 15:00～17:00
- ・ 参加人数：延べ98名（ZOOM参加者：77名、会場参加者：21名）
- ・ 参加地域：13都道府県

(2) ネオニコチノイド系農薬公開講座（第2回公開講座）の計画

ネオニコチノイド系農薬をテーマに、第2回公開講座の開催について協議し、以下の内容が決まりました。

【ネオニコチノイド系農薬公開講座の計画】

- ・ 開催日：10～11月の土日、講師の都合を優先して決めていく。
- ・ 開催方式：ZOOMウェビナーによるリモート講座
- ・ 広報：9～10月にチラシを作成し、配布・配信する。

2. バスツアー計画について

11/25～26で実施予定のバスツアーについて、新型コロナウイルス感染状況を勘案し、実施の可否も含めた話し合いを行いました。

市民部会としては、新型コロナの現状を勘案し、当面はバスツアーの募集は行わず、9月の感染状況から実施するかどうかを判断することとします。なお、中止とした場合は、来年度に再度バスツアーを計画することとしました。

3. その他

- ・ 第2回公開講座の進行、役割分担を協議するための市民部会打合せを、公開講座の2～3週間前に行うこととしました。
- ・ 10月2～3日に開催される「いい川・いい川づくりワークショップ」について説明がありました。矢作川流域圏懇談会としての関わり方を検討していきます。
- ・ 矢作川感謝祭（9/5）と三河湾大感謝祭（10/24）について、内容や開催の見通し等の説明がありました。現時点では、開催する方向で進んでいますが、コロナの状況から小規模な開催になる見込みです。



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●公開講座の総括と今後の計画について

(1) マイクロプラスチック公開講座(第1回公開講座)開催結果

- ・快適に講演やディスカッションを聞くことができよかったと思う。(山本孝)
- ・YouTubeで公開でき、啓蒙になると思う。農業関係者にも見てもらえるとよい。(山本薫)
- ・YouTube動画の内容について、講演者である千葉先生の確認をとるほうがよい。現在確認中。(近藤)
- ・千葉先生の話しを身近に聞け、四日市大学の学生が研究に協力されていることなどがわかりとてもよかった。(沖)
- ・実際の現場での調査の話しとマイクロプラスチックの話しの方があり、非常にわかりやすかった。(中田)
- ・山・川・海・市民の各部会を繋げられたことが成果と思う。また、懇談会から外への発信ができたことも成果と思う。100名ほど参加があったが、半分以上はオンラインによる外部の方々からの参加だった。(近藤)
- ・四日市大学や岐阜大学の学生など若い人たちにスタッフとして関わってもらえたことは一つの成果と思う。(近藤)
- ・スタジオにおけるカメラワークやマイク設置などで改良の余地がある。スタジオは会議室のような部屋のほうがよい。今回は座る必要があったのと、外部音など少々やりづらさを感じた。(光岡・松沢)

(2) ネオニコチノイド系公開講座(第2回公開講座)の計画

<公開講座の進行等>

- ・第2回公開講座は、10~11月の土日で候補日を設定し、講師に都合を確認する。(光岡)
- ・第2回公開講座もZOOMでのオンラインで実施することになると思う。第1回のノウハウを活かしていく。(光岡)
- ・スタジオは、崇化館のような会議室が機能的でやりやすいと思う。(光岡・近藤・松沢)
- ・講演者がどこから参加するかは、コロナの状況などを勘案して検討する。司会者・懇談会パネラーなどはスタジオ参加のほうがよいと思う。(松沢)
- ・スタッフとして人間環境大学や流域の大学の学生に関わってもらい、外に広げていくことを進めたい。(近藤)
- ・ディスカッションでは、登壇者(パネラー)となってくれる人を用意するほうがよい。登壇者の候補については、講師と協議して決める。また、流域圏懇談会からも登壇をお願いしたい。(近藤・松沢)
 - ▶ 農業関係で山本(薫)さん、市民関係で沖さん、鳥類など生物関係で高橋さんなど。(松沢)
 - ▶ 学術的な視点でパネラーとなってくれそうな方も検討するとよい。(光岡・近藤)
- ・最初の挨拶は市民部会座長、最後の挨拶は副座長が行う。流域圏懇談会へのお誘い等は事務局が説明する。(光岡)
- ・ネオニコチノイド系農薬の影響については、あまりアカトンボに絞りにすぎないほうがよい。ニホンミツバチへの影響など全体的な動きも話題の中に織り込むのはどうか。(近藤)
 - ▶ ネオニコチノイド系農薬問題の発端はミツバチなので、ディスカッションの中に盛り込んでいくとよいかと思う。川の中の生態系などいろんな事例をディスカッションで取り上げるとよいかと思う。(松沢)
- ・公開講座の内容を流域圏懇談会の3部会でどういうふうに取り上げてもらうか、関わっていけるかが課題。(光岡)
- ・ネオニコチノイド系農薬の講座は、特に農業系の方々に参加していただきたい。(山本孝)
- ・公開講座のYouTubeでの公開について、講師に事前の了解をとるほうがよい。(光岡)

<その他>

- ・ネオニコチノイド系農薬について、東海農政局と環境省に意見を聞いたのでお知らせする。(事務局)
 - ・東海農政局では、ネオニコチノイド系農薬の人体や環境への影響は少ないと考えているが、今年度にネオニコチノイド系農薬の再評価を行う予定とのこと。
 - ・環境省では、チラシの説明で見解と異なるところもあるので、断定された事実と受け止められないような表記を検討してほしいとのこと。農薬被害が懸念される場合は、使用方法などの見直しが行われることになるとのこと。
 - ▶ チラシ案の説明文で、「〇〇といった研究がある」「研究では〇〇」等の表記を加えるほうがよい。(事務局)
 - ▶ 「〇〇という見解もある」などの表現でよいと思う。生態系への影響などは曖昧にするのではなく、見解として明示することでよいと思う。(山本薫)
 - ▶ 講師の方に自由に自分の見解を述べていただくことで問題はないと思う。(山本孝・光岡)

●バスツアー計画について

- ・コロナ禍にあって、国土交通省の事業として実施のハードルが最も高いのがバスツアーと思う。(近藤)
- ・国土交通省の事業であることを考えると、この時期に募集をかけるのも考えた方がよい。(沖)
- ・参加人数が少なくなることが問題。広く募集をかけて流域圏懇談会を知ってもらうことも大きな目的と思う。(近藤)
- ・バスツアーは成功させたいので、11月はパスして、状況をみながら再検討するほうがよい。(山本薫)
- ・まだ3ヵ月あるので何とも言えないが、来年4~6月ごろに延期するほうがよいかもしれない。(高橋)
 - ▶ バスツアーはコロナの状況をみて、あらためて設定をし直す。募集をかけることも止めておく。候補地や工程は現計画を活かしていく。(光岡)

今後の予定

■市民部会 WG 日時：令和3年10月8日(金) 14:00~16:00 豊田市崇化館交流館

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@milit.go.jp) までお送りください。